

第2回（平成17年度）

日本原子力学会北関東支部 技術功労賞

「第2回（平成17年度）日本原子力学会北関東支部技術功労賞」は、選考委員会の審議を経て平成18年3月17日の支部役員会において以下の3件の受賞が決定しました。

本賞は、北関東支部管内において原子力に関する研究開発施設やプラントの運転管理、安全確保など技術支援分野において優れた貢献をした個人または団体に対して、その功労をたたえるものです。

受賞者（受賞団体）及び受賞概要

・ **長沢 義男氏（エイ・ティ・エス株式会社）**

件名：長年にわたる再処理施設における核燃料物質等輸送業務の遂行

（概要）日本原子力研究開発機構（旧サイクル機構）の役務契約社員として、1976年再処理施設のウラン試験から現在に至るまで、約30年間にわたり一貫して核燃料物質等の所内運搬作業のスペシャリストとして、無事故・無災害でこれらの業務を遂行し、使用済燃料の処理量約1,100 tの達成に大きく貢献した。

・ **林 謙二氏、谷田部 敏男氏、加藤 章一氏、平川 康氏**

（日本原子力研究開発機構、大洗研究開発センター、技術開発部液体金属試験技術課）

件名：長年にわたるナトリウム研究試験施設の

安全な運営管理と試験技術の高度化

（概要）20～30年の長年にわたり、高速炉(FBR)の研究開発に欠かせない高温ナトリウム中での伝熱流動試験、大型機器開発試験、構造材料試験および蒸気発生器試験などの効率的かつ安全な試験運転を担当するとともに、危険物施設の自主保安強化および試験運転技術の改善工夫や高度化を図りながら研究施設の運営管理を遂行してきた。これらの成果は、ナトリウム取扱技術の確立およびFBRの機器開発や設計基準などに反映された。また、多くの内外技術者らを対象に金属ナトリウム取扱の面から技術指導・支援としても長く携わり、ナトリウム取扱者の技術育成・向上に貢献した。

・陽子加速器とビーム利用基盤装置開発運転グループ（代表者：二宮 重史）
（高エネルギー加速器研究機構、筑波大学）

件名：陽子加速器ならびに関連するビームラインの運転保守管理と性能向上

（概要）高エネルギー加速器研究機構の陽子加速器は、1975年に建設され、ニュートリノ振動の検証と陽子線での癌治療技術確立など先駆的な研究成果を挙げ、大学教育にも大きく貢献してきた。これらは陽子加速器ならびに関連するビームラインの開発、性能向上と運転時間確保のために維持管理に当たって来た現行ならびに旧来スタッフの不断の努力の賜物である。

その陽子加速器のビーム強度が他の加速器に比べて遙かに高いため、放射線レベルが高くその維持管理は難しい。また、建設以来30年になる加速器とビームラインは、故障、修理・交換の頻度も高くなってきたが、そのような中で、90%以上の設備利用率を維持してきた。

共同受賞者

陽子加速器グループ：

二宮重史、高木昭、久保富夫、安達利一、荒川大、荒木田是夫、五十嵐進、五十嵐前衛、池上清、石井和啓、魚田雅彦、門倉英一、川村雅人、川久保忠通、(故)木代 純逸、北川潔、木原元央、久保田親、黒沢利武、斎藤芳男、酒井泉、佐藤康太郎、佐藤皓、佐藤吉博、白形政司、末野毅、菅井勲、染谷宏彦、高崎栄一、高野進、高山健、竹中たてる、武田泰弘、田澤七郎、徳田登、戸田信、外山毅、内藤富士雄、中川秀利、中村英滋、南茂 今朝雄、濁川和幸、丸塚勝美、三浦孝子、三川勝彦、武藤建一、村杉茂、山口博、吉井正人、吉野一男、李成洙（以上 KEK）

NML 陽子ビームライングループ：

入江吉郎、武藤豪、金子直勝、藤森寛、小林庸男、田原俊央、矢野喜治（以上 KEK）

筑波大陽子線グループ：

高田義久、滝川紘治、立川光、黒沢浩一、照沼利之、稲田哲雄、早川吉則、丸橋晃、多田順一郎、栄武二、納富昭弘、安岡聖(以上筑波大)、福本貞義(KEK)

ビームチャネルグループ：

高崎稔、野海博之、鈴木善尋、加藤洋二、山野井豊、皆川道文、広瀬恵理奈、上利恵三、里嘉典、高橋仁、豊田晃久、渡辺丈晃、田井野光彦、石井晴美、田中万博、家入正治、山田善一（以上 KEK）